

宮内科研会議 2016.7.23



この科研で何を議論するのか？  
～野生動物管理・獣害対策の場合～

九州大学 基幹教育院  
安田章人

# 獣害問題

朝日新聞 2016年2月16日 朝刊 33ページ 愛媛全県

『農作物にイノシシ被害 収穫の秋迎え、  
農家苦悩』 (朝日新聞2007年10月11日)

『東京・奥多摩でシカ食害被害 森林4割  
の区画で確認』 (読売新聞 2004年10月27日)

『JR列車とシカ、イノシシが衝突』  
(毎日新聞 2015年10月15日)

## イノシシ襲う？ 農家の男性死亡

八幡浜

八幡浜市保内町宮内の山林で14日午後6時15分ごろ、近くの農業大星昭男さん(81)が山道の脇に倒れているのを、捜していた家族が見つけた。大星さんは市内の病院に搬送されたが、

出血性ショックで間もなく死亡が確認された。

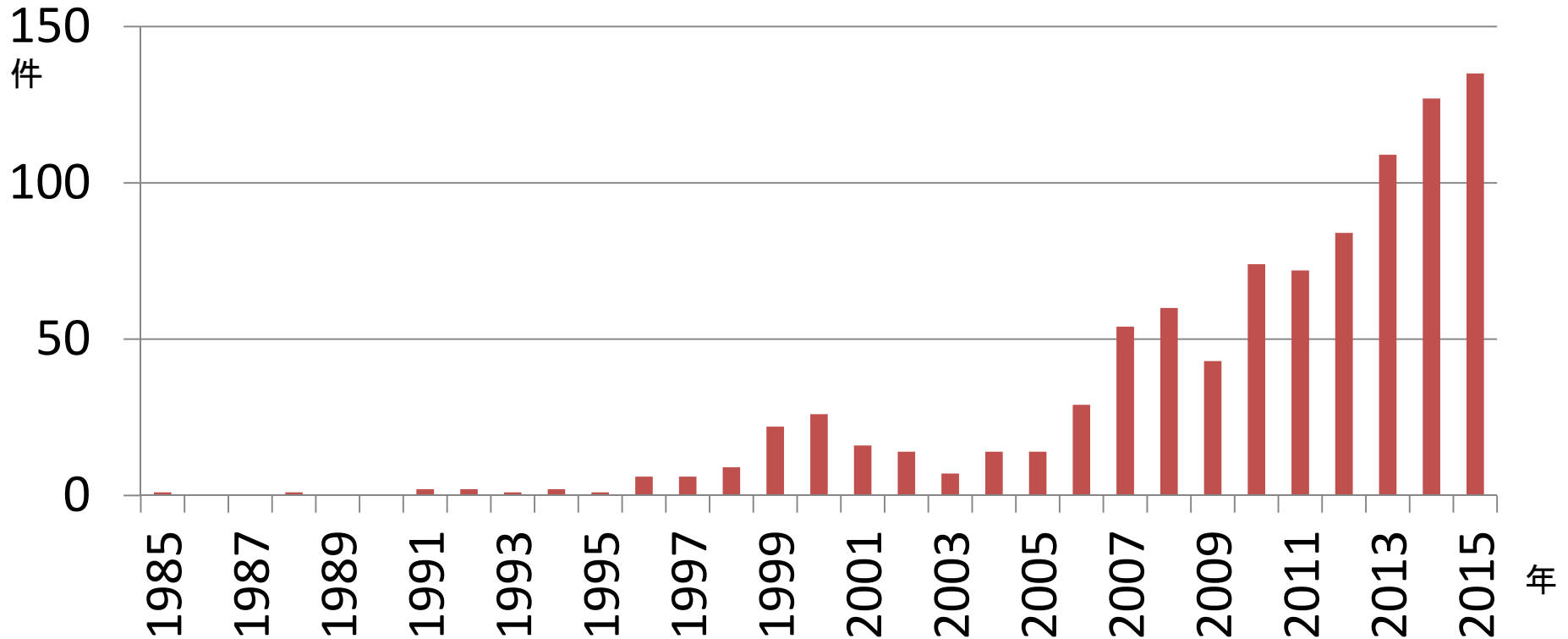
八幡浜署によると、大星さんの胸や腰などに動物の牙で刺されたり、かまれたりした傷があったという。傷痕や大星さんの軍手に付着していた毛などから、署はイノシシに襲われたとみている。

大星さんはこの日の午後1時半ごろ、1人で家を出

て、倒れていた場所の近くの畑で農作業をしていたらしい。署は付近の住民に注意を促している。

近くの住民らによると、現場周辺はイノシシがよく出没し、農作物への被害があるという。

# 獣害問題



朝日・読売・毎日新聞に掲載された「野生鳥獣」と「被害」というキーワードを含んだ新聞記事の総数の推移

# 獣害問題対策あれこれ

- 被害を減らす
  - ・侵入防止策の設置
- 狩猟者を増やす
  - ・わな猟取得年齢制限の引き下げ
  - ・新規狩猟者の発掘
- 捕獲頭数を増やす
  - ・猟期外の有害鳥獣捕獲の実施
  - ・報奨金の交付
- 食べる

このままでは  
「獣害問題」は「解決」しない

# 対処療法的でしかない対策

- 被害を減らす
- 狩猟者を増やす
- 捕獲頭数を増やす
- 食べる

単に「増えているので、減らそう」としているだけ

そもそも「獣害問題」の原因は？

1. 有害鳥獣が増えた
2. 人々が獣害問題として深刻にとらえるようになった

本来身近な「野生動物」＝「奥山の生き物」という意識

社会の中で「獣害問題」として発現するプロセスへの注目不足

# 野生動物管理学

## ● ワイルドライフ・マネージメント

- ・「不確実性」と「非定常性」を前提とした「順応的管理」
- ・個体数管理、生息地管理、被害管理の3本柱

「被害発生の原因やプロセスを解明し、野生動物と人間の行動と環境を管理して、被害を軽減することが目的」

「被害の軽減が大前提」「合意形成が必要」

「被害の軽減が大前提」

どこまで？

「合意形成が必要」

どうやって？



では、どうすればよいのか？

# 地域にとって「『野生動物管理』とはなにか」を 咀嚼する実践的な「場」を創造

富田涼都・安田章人 2014 「地域社会にとっての「資源」とは何か？ 生態系のアンダーユースと自然資源管理－地域社会の文脈への「埋め戻し」試論」 Wildlife Forum第19巻1号 「野生生物と社会」学会 pp.18-20.

# なぜか？

なんのための「野生動物管理」なのか？

誰がメリットを得て、デメリットを負うのか？

例)ジビエ、猟区

咀嚼する場がなければ、ガバナンスは硬直化する

ウエからのご説明でもなく、ウエによる「場」の設定でもない

必然的にボトムアップが重視される

**地域社会が課題を解決し、  
かつ可能性を見いだすための  
住民による主体的活動と住民からの発議**

# モデルを見出す

すでに住民による主体的な活動と発議があり、  
かつ継続している地域(=咀嚼できている地域)

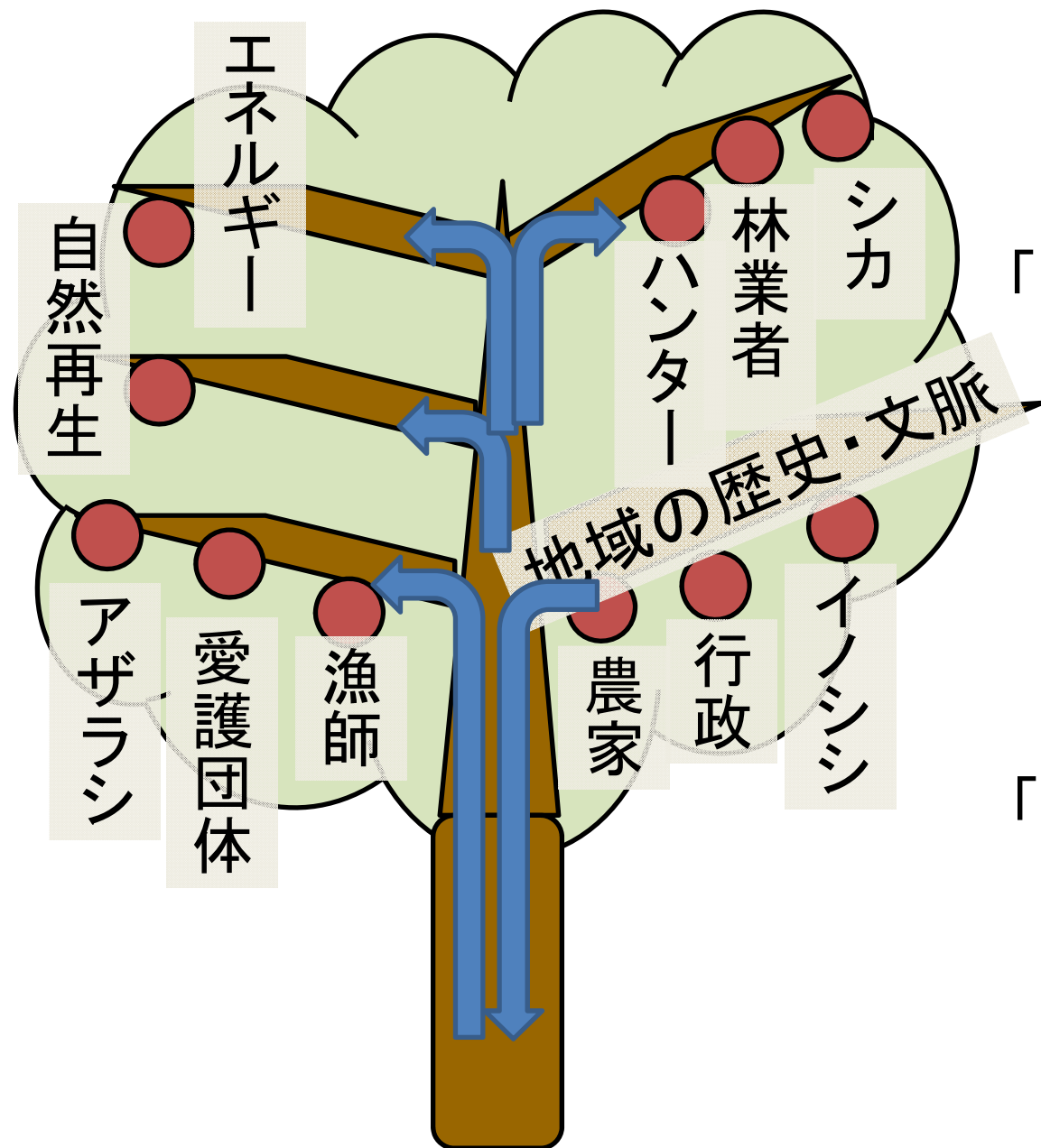


研究者によるポイントの発掘と、モデル構築  
「柔軟さ」のなかにもなにか芯があるはず



主体的な活動と発議が弱い地域を後押し  
主体的な活動と発議がまだない地域に火付け

# イメージ



「枝」: 各地域における行動

「幹」: モデル理論

地域社会における咀嚼  
主体的な活動と発議

# モデルのポイントを探る



## 1. 知ること

地元の人が知らないことも(関係の喪失／新問題)

在来知と科学知 トランスレーター

## 2. 「我が事」として考えること → 地域の「丈」に合った対応

他者(行政など)のせいにしがちな現状

= 自分と他者の、自分と自然との「リンク」をもつこと

## 3. 中心人物

「ローカルヒーロー」の存在

## 4. 楽しむこと

楽しくないと、「他人のせいにする」「知ろうとしない」

結果的に地域として考えることにつながることを期待(ずらし)



地域社会における咀嚼  
主体的な活動と発議



「住民からの発議」

「知る事」

「我が事として考える事」

「中心人物」

「楽しむ事」

アリバイ作りの場

刺客

単発イベント





**「獣だけじゃない」**

**「生き方」への注目**

# ジャイアニズムへの対抗？

「獣だけじゃない」

→「地域資源」への注目

例) スローフードしむかつぶ

落差工ちゃん、山菜市

獣、山、川を、地域の歴史・文化で練り上げた  
資源の総体としてとらえる

→縦割り行政を逆に利用できる？

資源の総体、「地域資源」のなかでどう生きるか？

→「生き方」への注目

# この科研でなにを議論したいか？



- 実践性の重視

地域社会における咀嚼

主体的な活動と発議

「生き方」への注目

「なぜうまくいかないのか？」から

「どうすればうまくいくのか？」へ

「なぜ？」と「どうすれば？」で見出されたポイントの照合

- 野生動物管理学との協働

「順応的管理」と「順応的ガバナンス」